製品安全データーシート(MSDS) GHS 対応

作成: 平成 21 年 07 月 01 日　改訂：平成 21 年 10 月 20 日
改訂内容：H21.10.1 施行改正化管法対応

１．化学物質等及び会社情報

製品
　製品の名称　TC-KS320 抗菌・消臭ｽﾌﾟﾚｰ 320mL
　品番　TC-KS320
供給者情報
　会社名　トラスコ中山株式会社
　住所　〒550－0013　大阪府大阪市西区新町1－34－15
　担当部署　PB品質保証課
　発行連絡先　TEL 0120－509－849 FAX 0120－509－839　（お客様相談室宛）
推奨用途及び使用上の制限：抗菌･消臭剤

２．危険有害性の要約

重要危険有害性及び影響
GHS 分類

物理化学的危険性	
火薬類	分類対象外
可燃性／引火性ｶﾞｽ	分類対象外
可燃性／引火性エアゾール	区分 2
支燃性／酸化性ｶﾞｽ	分類対象外
高圧ｶﾞｽ	分類対象外
引火性液体	区分 3
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類できない
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類できない
金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入：ｶﾞｽ)	区分外
急性毒性(吸入：蒸気)	区分 5
急性毒性(吸入：粉塵、ミスト)	区分 5
皮膚腐食性/刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷性/目刺激性	区分 2A
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分 1B
発がん性	分類できない
生殖毒性	区分 1A
標的臓器/全身毒性(単回曝露)	区分 3(気道刺激性、麻酔作用)

標的臓器/全身毒性(反復曝露)	区分 1(肝臓) 区分 2（神経）
吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	
水生環境有害性(急性)	区分外
水生環境有害性(慢性)	区分外

ラベル要素

注意喚起語　危険

危険有害性情報
（気道刺激性）気道への刺激のおそれ／（麻酔作用）眠気またはめまいのおそれ
遺伝性疾患のおそれ
引火性液体および蒸気
可燃性／引火性のエアゾール
吸入すると有害のおそれ（気体，蒸気，粉塵，ミスト）
重篤な眼への刺激性
生殖能または胎児への悪影響のおそれ
長期または反復暴露による臓器<肝臓>の障害
長期または反復暴露による臓器<神経>の障害のおそれ

取扱注意

［予防策］
保護手袋および保護眼鏡／保護面を着用すること。
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器等を使用すること。
容器および受器を接地すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
加圧容器：使用後穴をあけたり燃やしたりしないこと。
火花を発生しない工具を使用すること。
使用前に取扱説明書を入手すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
熱／火花／裸火／高温のもの<のような着火源>から遠ざけること。－禁煙。
必要に応じて個人用保護具を使用すること。
ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入しないこと。
ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
容器を密閉しておくこと。
裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。

［対 応］
火災の場合には、消火に粉末消火剤、炭酸ガス、泡消化剤を使用すること。
皮膚または髪に付着した場合：直ちに、汚染された衣類を全て脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の診断/手当を受けること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
吸入した場合：気分が悪い時は、医師に連絡すること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。
取扱った後、手を洗うこと。
曝露又は曝露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。

［保　管］　容器を密閉して換気の良いところで保管すること。
施錠して保管すること。
日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
涼しい所／換気の良い場所で保管すること。

［廃　棄］　内容物/容器を各都道府県の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

GHS 分類に該当しない危険有害性：特になし

分類　引火性液体

危険性　引火しやすい液体を含んでおり、蒸気は空気と一定量混合すると爆発性混合ガスとなる恐れがある。

有害性　ｴﾀﾉｰﾙは、工業的には比較的無害の溶剤と見なされるが、蒸気を吸入すると麻酔剤として働き、繰返しさらされた場合、粘膜への刺激、めまい、感覚鈍麻、頭痛などを起こす。

3．組成・成分情報（混合物・危険有害性物質を対象）

成分名（別名）	CAS No.	含有濃度（質量%）	化学式又は構造式	官報公示整理番号(化審法)	PRTR 法
エタノール	64-17-5	40.0～50.0	C_2H_6O	2-202	対象外
グリセリン	非公開	1.0～5.0	非公開	非公開	対象外
グリセリン脂肪酸エステル	非公開	1.0 以下	非公開	非公開	対象外
孟宗竹抽出物	非公開	1.0 以下	非公開	非公開	対象外
その他の成分	非公開	1.0 以下	非公開	非公開	対象外
水	7732-18-5	40.0～50.0	対象外	対象外	対象外
窒素	7727-37-9	1.0 以下	N_2	対象外	対象外

4．応急処置

以下のいずれの場合も医師の手当を受けること。

目に入った場合　:直ちに、清浄な大量の水で最低 15 分間洗い流す。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。さらに長時間洗浄を続けること。
速やかに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合　:汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。
大量の水で洗い流す。洗い流してから水と石鹸で皮膚を洗浄する。
溶剤、シンナーは使用しないこと。

吸入した場合　:被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸が不規則か止まっている場合には人工呼吸を行う。
ひどい場合は直ちに医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合　:水でよく口の中を洗浄した後、ｺｯﾌﾟ数杯の清水を飲ませ希釈し、可能であれば、指を喉に差し込んで吐き出させ、直ちに医師の診断を受ける。

最も重要な兆候及び症状　:データなし

応急措置をする者の保護　:救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。

医師に対する特別注意事項　:特になし

5．火災時の措置

消火剤　:粉末消火剤、炭酸ガス、泡消化剤、噴霧水。

使ってはならない消火剤 :棒状注水
火災時特有の危険有害性 :火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがある。
特有の消火方法 :付近の着火源、高温体などを速やかに取除き、関係者以外の立ち入りを禁止する。
適切な保護具を使用する。
風下に人を近づけない処置を行い、退路を確保の上、風上より消火活動を行う。
直ちに消火器等で消火する。
指定の消火器を使用すること。
延焼を防ぐため、安全を確認の上、周囲の可燃物を除去する。
容器及び周辺に散水冷却して延焼を防ぐ。
火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を十分に取り、高温にさらされる製品容器には水等をかけて冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護 :消火者は必ず適切な保護具（耐熱着衣、保護眼鏡等）を着用し、有毒ｶﾞｽが発生する恐れがある為、空気呼吸器等を装備する。

６．漏洩時の措置

人体に対する注意事項 :曝露防止の為、作業の際には適切な保護具を着用する。
保護具及び緊急措置 漏れ発生時（噴出時）には風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。
浸透性及び揮発性があるので、付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。
室内の処理作業は充分に換気する。
環境に対する注意事項 :河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
除去方法 ｳｴｽ等で拭取り、こぼれた場所に速やかに大量の水で洗い流す。
付着物、廃棄物などは関係法規に従い処理すること。
二次災害の防止策 :付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに、着火した場合に備えて消火器を準備する。

７．取扱い及び保管上の注意（労働安全衛生法、消防法等の関連法規に準拠して作業する。）

取扱い
技術的対策 :使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。
周辺で火気・スパーク・高温物の使用を禁止する。
火炎に向かって噴射してはならない。
温度が高くなる場所に置くと、容器が破裂する恐れがある。
容器は転倒したり、落下したり、衝撃を加えたり、引き摺ったり等、粗暴な取扱いをしないこと。
静電気対策を実施する。
局所排気・全体換気 :換気のよい場所で取り扱う。
注意事項 密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。（適切な換気設備を使用し、環境濃度の管理を行う）
取扱い後は手洗い等を十分に行う。
飲まない。
取扱う設備のある場所を整理整頓し、その場所に可燃性のもの又は酸化性のものを置かない。
保管
適切な保管条件 :幼児の手の届かない所に置くこと。
直射日光を避け、通風の良い所に保管する。
水回りや湿気の高いところに置くと、缶が錆びて内容物が漏出又は噴出する恐れがあ

る。
盗難防止のためか、倉庫等には必ず鍵を掛けて保管すること。
火気、熱源から遠ざけて保管する。
消防法の第1類及び第6類の危険物との混合貯蔵は禁止
40℃以上になる所には置かないこと。
その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。

安全な容器包装材料　:高圧ｶﾞｽ保安法等の法令で規定されている容器を使用する。

8．暴露防止及び保護措置

設備対策　:排気装置を付けて、蒸気及びガスが滞留しないようにする。
換気をよくする。
取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。

安全管理　:検知器及び検知缶により環境測定を行い、必要に応じて保護具を着用する。

曝露限界値

成分名	管理濃度（安衛法）	許容濃度		
		日本産衛学会	ACGIH(TLV-TWA)	ACGIH(TLV-STEL)
エタノール	設定されていない	設定されていない	1000ppm(1880mg/m³)	設定されていない
窒素	※1	設定されていない	※2 単純窒息性ｶﾞｽ 不活性ｶﾞｽ	設定されていない

※ 1：空気中の酸素濃度が18v/v%未満にならないようにすること。
※ 2：特別の生理作用は及ぼさず、単純窒息性ガスとして作用する。この場合に危険性の判断の基準は残存酸素濃度であるので、個々の単純窒息性ガスに対して許容濃度は定められない。環境中で確保すべき最低酸素濃度は常圧で 18v/v%(酸素分圧 18KPa)である。酸素欠乏の空気は何ら警告的作用は与えないし、単純窒息性のガスはほとんどは無味無臭である。

保護具　必要に応じて着用する。
手の保護具　保護手袋
目の保護具　保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具　保護衣等。
適切な衛生対策　作業中は飲食、喫煙をしない。
取扱い後は手をよく洗う。

9．物理的及び化学的性質，危険性情報

	内溶液	噴射剤(窒素)
状態	液体	気体
外観	淡緑黄色透明	無色
臭い	アルコール臭	無臭
ｐＨ	6.0±0.5(20℃)	該当しない
融点	該当しない	-209.9℃
沸点	78.32℃(101.325kPa ｴﾀﾉｰﾙとして)	-195.8℃
引火点	13℃(ｴﾀﾉｰﾙとして)	なし
発火点	439℃(101.325kPa ｴﾀﾉｰﾙとして)	なし
爆発範囲	データなし	なし
蒸気圧	データなし	データなし
蒸気密度	データなし	1.25kg/m³(1atm、0℃)
比重	0.917(20℃)	0.967 (空気=1、1atm、25℃)
溶解性	水に可溶	水：1.557cm³/100g H_2O(20℃、1atm)

ｵｸﾀﾉｰﾙ/水分配係数	データなし	データなし
分解温度	データなし	データなし
その他	データなし	データなし

１０．安定性及び反応性（製品として）

安定性	40℃以上になると破裂の恐れがある。 常用温度で缶内圧は約 0.90MPa。
危険有害反応可能性	硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸ﾏｸﾞﾈｼｳﾑなどの強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件	高温多湿な場所での保管及び火気の近くでの使用。 熱、スパーク、静電気
接触危険物質	硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸ﾏｸﾞﾈｼｳﾑなどの強酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素など

１１．有害性情報（内容液について。人についての症例、疫学的情報を含む）

	急性毒性（経口）	急性毒性（経皮）	急性毒性（吸入:ｶﾞｽ）	急性毒性（吸入:蒸気）	急性毒性（吸入:ﾐｽﾄ）	皮膚腐食性/刺激性	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性
ｴﾀﾉｰﾙ	区分外	分類できない	分類対象外	区分外	区分外	区分外	区分 2A
ｸﾞﾘｾﾘﾝ、ｸﾞﾘｾﾘﾝ脂肪酸ｴｽﾃﾙ、ｴﾀﾉｰﾙ、孟宗竹抽出液混合物	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
その他の成分	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
水	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
窒素	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外

	呼吸器感作性/皮膚感作性	生殖細胞変異原性	発がん性	生殖毒性	特定標的臓器/全身毒性（単回曝露）	特定標的臓器/全身毒性（反復曝露）	吸引性呼吸器有害性
ｴﾀﾉｰﾙ	分類できない	区分 1B	分類できない	区分 1A	区分 3（気道刺激性/麻酔作用）	区分 1（肝臓）、区分 2（神経）	分類できない
ｸﾞﾘｾﾘﾝ、ｸﾞﾘｾﾘﾝ脂肪酸ｴｽﾃﾙ、ｴﾀﾉｰﾙ、孟宗竹抽出液混合物	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
その他の成分	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
水	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
窒素	区分外	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外

※製品としての有害性情報は有しない

１２．環境影響情報

	水生環境急性有害性	水生環境慢性有害性
ｴﾀﾉｰﾙ	区分外	区分外

ｸﾞﾘｾﾘﾝ、ｸﾞﾘｾﾘﾝ脂肪酸ｴｽﾃﾙ、ｴﾀﾉｰﾙ、孟宗竹抽出液混合物	分類できない	分類できない
その他の成分	分類できない	分類できない
水	分類対象外	分類対象外
窒素	区分外	区分外

※製品としての有害性情報は有しない

１３．廃棄上の注意

廃棄をする場合には、ｶﾞｽを完全に抜いた後に行う。

残余廃棄物　　:ｶﾞｽを完全に抜いた後の内容液は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

汚染容器・包装　　:中身を使い切ってから分別廃棄する。

１４．輸送上の注意

・「7.取扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

輸送の特定の安全対策及び条件　運搬に際しては容器を 40℃以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように積込み、荷崩れの防止を確実に行う。

国内規制

陸上輸送　消防法ほか法令の輸送について定めるところに従う。

海上輸送　船舶安全法に定めるところに従う。

航空輸送　航空法に定めるところに従う。

国際規制

国連分類　IMDGｺｰﾄﾞ class 2.1

国連番号　1950

１５．適用法令

労働安全衛生法　通知対象物質(エタノール)

船舶安全法　高圧ｶﾞｽ

航空法　高圧ｶﾞｽ

高圧ｶﾞｽ保安法　適用除外（圧縮ｶﾞｽ）
但し、政令告示並びに高圧ガス保安一般規則規定に従う。

消防法　非危険物

危険物船舶運送及び貯蔵規則　IMDGｺｰﾄﾞ class 2.1（UN No. 1950）。

毒物及び劇物取締法　該当しない。

PRTR 法　該当しない。

１６．その他の情報

参考文献　原液 MSDS
窒素ガス MSDS
化学物質管理促進法対象物質全データ
労働安全衛生法対象物質全データ
毒物及び劇物取締法対象物質全データ（化学工業日報社）

製造委託先　エア・ウォーター・ゾル株式会社

委託先製品ｺｰﾄﾞ　AN00192

記載内容の取扱い　全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。また新しい知見の発表や従来の説の改訂により内容に変更が生じることがあります。ここに記載された情報は情報の完全さ・正確さを保証

するものではありません。全ての化学品には未知の有重要な決定等にご利用される害性があるため、取扱いには細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行って下さい。